



出納頭事務章程

「シーボルト」贈寄内

大藏省  
翻譯課

1601





出納頭事務章程

第一章

出納頭ハ大政官大藏寮ノ職負ニシテ出頭本局々長ノ

次ニ位シ本寮ヨリ出納頭及本局ニ達セラレタル普通及特別ノ

布達并其指揮ヲ遵奉シ又ハ其指令ニ由リ自ラ事務ヲ期日マデ

整頓シ或ハ職負ヲシテ整頓セシムルヲ掌リ且ツ會計事務ニ

関スル他寮ノ布達若シ唯公認セラレタル計算ノ一條款ニノミ

関スルナハ又之ヲ遵守スベシ

第二款 出納頭ハ出納事務長官トシテ該局即チ國財局及其他

総テ出納本局ノ一管理ニアル諸局ヲ云フヲ管理シ本局職負ノ

上ニ位シ之ニ事務ヲ分課シ且ツ職負ノ克ク期限ヲ守リ且ツ成

規ニ從テ事務ヲ整頓スルヤ否ヲ監督シ又該局歳入ノ取立及歳

出ノ仕拂并一般出納ノ事務章程及金銀取扱ニ関スル規則ニ付

テハ大藏寮所轄各出納分局ニ指令スルノ権ヲ有ス

渡辺 廉吉 詳

大正十一年四月  
隈 侯爵郵寄贈

第三款 本局職員賜暇第三十五款ヲ見ヨ或ハ疾病等ニテ事務  
整頓上不都合アルカ又ハ職員欠勤スルカ為メ事務稽滞シ或ハ  
職員ニ欠負アルカハ出納頭右事務ヲ其他ノ職員ニ課付シ又時  
宜ニヨリ自ラ之ヲ擔任シ以テ事務ヲ取扱フベシ但シ其時日十  
四日ヲ超越シ或ハ欠勤数日ニシテ他ノ職員十分ニ事務ヲ完成  
シ能サルカハ其旨ヲ太政官ニ申報スベシ  
出納頭自ラ欠勤スルカハ一等簿記官ヲシテ其代理ヲ為サシム  
ベシ

第四款 出納頭ハ通常自ラ金銀ノ出納ヲ掌ラズシテ出納官歳  
入ノ取立及歳出ノ仕拂ヲ管掌ス但シ時宜ニヨリ出納官其屬官  
ヲシテ其事務章程ニ由ラシメ以テ之ヲ委任スルカアリ然レモ  
若シ出納官暫時欠勤スルカハ出納頭出納屬官ヲ助手トシ自ラ  
其事務ヲ擔任スベシ但シ出納官ノ欠勤数日ヲ超越シ金銀ノ引

渡緊要ナルカハ監督者タルベキ簿記官ヲシテ日計簿ヲ結算セ  
シメ金銀有高ヲ記表シ以テ之ヲ請取り且ツ其旨ヲ太政官ニ申  
報スベシ

第五款 本局職員ノ平日出席スベキ時限ハ通常午前第九時ヨ  
リ午後第一時ニ至リ又午後第三時ヨリ同第六時ニ至ル但シ夏  
半期四月一日ヨリ十月一日マデハ午前第八時ヨリ始ムベシ但  
シ職員其主任シタル事務ヲ期日マデ整頓マシテ為メ尚時間ヲ  
要スルカハ右時限ヲ踰ユルカアルベシ

一千八百五十年十二月二十八日太政官ノ布達ニ基キ金銀ノ出  
納ハ必ス午前第九時ヨリ午後第一時マデノ時間ヲ以テスベシ  
但シ出納官事務繁雜ニシテ右時間中ニ悉ク整頓シ能ハサルカ  
ハ其残務ヲ他ノ時間ニ延引スルモ妨ナシ

第六款 出納頭ハ其官名ヲ以テ到達スル書類共出納本局ニ向

ケ到達スル諸書ヲ開封見閲シ特別ノ決断ヲ要スル事務ハ之ヲ  
其記録本表ニ記入シ又通常ノ金銭出納ニ関シ且ツ出納官及出  
納属官ノ事務章程ニ由リ取扱ルベキ者ハ之ヲ出納官ニ渡シ以  
テ整頓セシムベシ

第七款 記録本表ノ外ニ支表二種アリ

第一種ハ貯金第二号及第三号ニ関スル事務及其他ノ出納ノ為  
メニ調製ス

第二種ハ第十一大隊ノ計算事務ニ関スル照會ヲ記録ス

右諸表ハ皆曆年ニ從テ各年新製スベシ

記録表ヲ記入スルニ精々簡易ヲ主トスベシ出納頭ハ常ニ右諸  
表ニ記入シタル事務ヲ遲滞ナク決断シ或ハ主任ノ職責ヲシテ  
之ヲ整頓セシムベシ(出納頭<sup>ロツカ</sup>其方法ヲ指揮スル<sup>ト</sup>アルベシ)  
至急ノ事務ニシテ之ヲ後日ニ延引シ不都合ヲ生シ又ハ損害ヲ

醸ス等ノ恐レアル時ハ譬ヒ日曜日或ハ祭日タリトモ整頓スベ  
シ

第八款 出納頭ハ其事務ノ整備ヲ保任シ且ツ事務克其成規及  
太政官普通及特別ノ布達ニ順適スル<sup>ト</sup>ヲ保証スベシ又本書整  
頓ノ為メ自ラ或ハ職責ノ草創シタル概算表ヲ檢印シ及他廳ニ  
送付スル本書并指令(通常精々之ヲ施用スベシ)ニ捺印スベシ  
報告、指令及其他ノ書類ニ捺印スルニ次ノ如ク記スベシ

出納本局出納頭印

第九款 出納頭ハ一週經過ノ後毎ニ本局日計簿ヲ檢閲シ且ツ  
他廳ヨリ照會ノ事務其期日ヲテ整頓セラレタルヤ否ヲ檢査ス  
ベシ

若シ其事務整頓セザル片ハ何ノ支障アリテ稽滞スルヤ其由  
ヲ推究シ且ツ至當ノ所分ヲ為シ以テ之ヲ調成セシムベシ

第十款 出納官ハ其事務章程ニ從ヒ收入ノ金額一万五千タ  
レル(四万五千マルク)ノ上ニ至ルハ出納頭ノ立會ヲヒテ之ヲ  
金庫ニ貯蓄スベシ但シ出納頭ノ立會アルトモ金高ノ保証ハ出  
納官ニ在リ

故ニ出納頭ハ金庫貯蓄ノ正金紙幣及銀行札ノ負額並之ヨリ仕  
拂スル金額ヲ其金袋及金包ノ上ニ表記セル金高ニ由リ検査シ  
但シ金高疑キハ其金數ヲ點檢スベシ且ツ貯蓄金包ノ上ニ出  
納官其金高記標ノ側ニ貨幣ノ種類ヲ一目瞭然タル様記入シタ  
ルノ後又其姓名ヲ記載スヘシ

出納頭及其代理(第三款ヲ見ヨ)ノ許可ナク金銀ヲ出納頭及出納  
官ノ封印シタル金庫ノ中ヨリ出納スベカラズ

第十一款 貯蓄金高積重シテ經費急務ノ仕拂紙幣通用スルハ  
ハ其引替ヲ預定シ得ルハ出納頭須ク他日收入スル金額ノ多

少ヲ斟酌シ不用ノ金額ヲワイマル銀行ニ預ケ一ヶ年四未ノ利  
子ニテ返濟期限アル証書ヲ取置クベシ但シ始ハ月割ニテ預ケ  
遂ニ壹万五千タレル即チ四万五千マルクニ至ルヲ以テ成規  
ノ定限トス

出納頭ハ常ニ何月程ノ期限ヲ以テ條約セシナラバ成丈ケ高貴  
ナル利子ヲ得ベキヤ深慮シ且ツ臨時ニ金圓ヲ要スルノアルト  
モ之ガ為メ其準備金ノ不足ヲ醸ス如キ不都合ヲ生ゼザル様注  
意スベシ但シ銀行ニ預ケタル金圓ヲ取戻シ以テ其準備ニ充ル  
カ如キ不得止事故生スルハ成速ニ其手段ヲ為スベシ  
右ノ場合ニ當リ太政官ノ准許ヲ得テワイマル銀行ヨリ預金  
ヲ暫時取戻スル緊要ナルハ其金額一ヶ年四未ノ利子ニテ十  
五万タレル即チ四万五千マルクニ至ルヲ以テ定限トス又銀  
行條例第十四款ヲ敷覽スベシ

預金取戻シノ節銀行其為換ヲ以テ返却スルハ出納頭其請取ヲ  
本局ノ成規ニ從テ調成シ且ツ其官印ヲ捺シ以テ保証スベシ  
返濟期限ヲ定メ以テワイマル銀行ニ交付シタル預金ノ証券並  
漸々ニ交付シタル預金ノ証券ハ出納頭及出納官立會ノ上封印  
スベシ

第十二款 或人ノ名前ヲ以テ認タル借財証券及社券按或人一  
ノ資本ヲ出シ以テ領収シタル者ニシテ暫時出納本局ノ所有ニ  
其利益ヲ分取スルノ功能アル証券ナリ  
屬スルトシ之ヲ金庫ニ納メ且ツ出納頭及出納官立會ノ上封印  
スベシ

第十三款 内國紙幣磨滅シテ記号等脱落シ或ハ明了ナラザ  
ルヲ以テ引替ヲ乞フアルハ其引替紙幣ノ出来ル迄一時正金  
ヲ以テ引替スルカ又ハ全ク之ヲ本引換ニスルハ出納頭ノ權ニ  
在リ故ニ出納頭ハ出納官ヨリ右紙幣ヲ請取り其正偽ヲ検査シ

且ツ其磨滅ノ部分ニ不正ノ所業ヲキヤ詳ニ判定スベシ

出納頭一千八百四十七年八月二十七日布達ノ第九款并一千八  
百四十八年布達全集第五葉目ノ主意ヲ遵守シ右紙幣ヲ検査シ  
正偽ノ疑惑アルハ手ヲ之ヲ本局ニ送スベシ局長紙幣  
本引替或ハ仮引替ヲ以テ至当ト裁決スルハ之ニ具姓名ヲ記  
スベシ

四季ノ終リニ紙幣引換ノ増加ニ付一覽表ヲ製シ以テ太政官ニ  
出スベシ但シ通常表ノミニシテ序文ヲ要セズ

第十四款 出納分局其權内ニ在ル諸經費任拂金ヲ本局ニ請求  
スルニハ必ス出納頭ノ許可ヲ受クベシ出納頭ハ別ニ異議ナケ  
レバ其請取帳ニ捺印スベシ

第十五款 出納頭ハ一ヶ月經過ノ後毎ニ簿記官ノ計算シ且ツ  
保証シタル出納日計簿及其確定シタル出納通計簿ト検査官ノ

調査簿トニ由リ出納官ト共ニ一月分ヲ結算シ且ツ出納官ヲシテ  
次越金高ノ請取ヲ其結算簿ニ記セシムベシ  
第十六款 連月ノ結算成ルルハ出納頭速ニ簿記官ノ差シタル  
帳簿ト検査官ノ簿冊トニ由リ其証書類ト有金ヲ比較シ且ツ其  
蹟ヲ特種ノ簿冊ニ記録スベシ  
連月ノ結算全ク終リタル寸出納官ハ前月ノ出納証書ヲ其主任  
ノ簿記官ニ渡し且ツ其請取ヲ取置クベシ但シ簿記官ハ之ヲ其  
職務章<sup>成</sup>ニ送テ取扱フベシ  
第十七款 簿記官ノ証書取扱方ヲ監督セン為メ出納頭ハ其事  
務施行ノ間々簿記官ノ眼目ニ觸レ<sup>テ</sup>監督上大ニ干渉ア  
計算類ヲ選擇シ之ニ渡スベシ  
第十八款 金銀本局ニ入ルルハ其金銀送達ノ官廳地位并金額  
ノ由テ生スル理由ニ即時ニ明瞭ナラザレバ該ニ之ヲ直ニ收入

帳ニ記入スルハ不都合鮮カラザレハ暫時<sup>之</sup>貯金トシ以テ遂  
ニ之ヲ收入帳ニ精細簿記スルヲ至当トス蓋シ該事務ハ自ラ該  
局特種ノ一課ヲ<sup>シ</sup>、但シ其日計簿ハ出納官擔任シ合帳ハ第二  
簿記官專掌ス右金銀收入ノ多寡ニ付<sup>テ</sup> 貯金ニヨリ太政官へ申  
報スベシ但シ若シ其申報アラザレハ別ニ他ヨテ太政官ニ通知  
スル者<sup>ハ</sup>、且ツ收入金額取扱<sup>ハ</sup>指令モ之ガ為メ行届ガルルハニ  
ノミ限ルベシ  
然レモ若シ金銀收入以後数日間ニシテ右金額ヲ收入帳ニ簿記  
スヘキ旨太政官ノ指令アルハ敢テ之ヲ暫時貯金ノ部ニ入ル  
ニ及バズ是レ其特例ナリ出納頭ハ此時ニ於テモ亦第二簿記官  
ヲシテ收入帳ノ簿記方ヲ擔任セシムベシ  
暫時貯金ノ部ニ入ルル金ハ該局ノ正金ニ加算シ且ツ其他ノ  
金銀ノ如ク取扱フベシ但シ貯金預証文并其他ノ証書ハ出納官

及第二簿記官立會ノ工封印スベシ然レモワイマル銀行ノ預金  
証文并請取ハ第十一欸ニ記載スル如ク出納頭出納官立會ノ上  
封印スルカ故ニ此例ニアラズ

第十九欸 貯金ノ部ニ屬スル金高(本局ニ屬スル貯金ノ証書)ハ  
貯金簿記法ニ由リ半期毎ニ即チ一月及六月ニ一覽表ヲ製シ太  
政官ニ差出シ以テ精々速ニ石金銀ノ所分ヲ得ル為メニ備フ  
シ

第二十一 是月經過ノ後速ニ簿記官ノ製シタル月表即チ

イ 出納本局及國財局ノ正金合計表

但シ貯金貨數并其中ヨリワイマール銀行ニ預ケタル金高  
右表中ニ詳シ

ロ 出納本局及國財局ノ出納簿

但シ若シ前年ノ計簿未タ結算ニ至ラザレハ其計算帳ヲ附

録スベシ

ヲ十日間ニ淨寫シ序文ナシニ出納頭ヨリ大政官ニ送達スベシ  
附録ノ計簿ハ前手ニ屬スル者ナル故ニ此期ヲ以テ必ズ完結シ  
具次ニ本年ノ計算報告ヲ記シ且ツ前年ノ殘金等ヲ本年ノ部ニ  
況越スベシ

第二十二 出納頭ハ毎年出納本局及國財本局ノ收入并仕拂  
ニ付豫算表及其特別條規ノ雛形ニ倣ヒ且ツ簿記官ノ結算シタ  
ル明細帳ニ基キ年計簿ヲ製シ大政官ノ檢査及批准ヲ受クベシ  
但シ之ニ附屬ノ証書モ帳簿ト共ニ送達スベシ

工部出納局ノ計簿并収稅局ヨリ送付スル工業計簿ハ出納本局  
年計簿ノ附録ナルガ故ニ出納頭ハ之ニ証書ヲ添ヒ共ニ大政官  
ニ差出シ其檢査ヲ受クベシ

第二十二欸 前欸ノ簿冊送達期限及時宜ニヨリ出納本局ノ管



理ニ係ル計算(鑄道建築費等)但シ其計算ハ出納頭自ラ擔任スノ  
調成并送達期日ハ左ノ如シ

イ 國財局ノ年計簿ハ八月一日ヲ以テ期日トス

ロ 工業計簿ハ十月一日ヲ以テ期日トス

ハ 出納本局ノ年計簿ハ十二月一日ヲ以テ期日トス

右諸帳簿ハ特ニ本會計年度ノ確定歳出入ヲ記入スル者ナレバ  
千八百六十八年九月二十一日ノ布達第千六百六十四号ヲ見合  
スベシ。頭ノ裁決シ能サル事故アリ期日マテ之ヲ調成シ能  
サル片ハ出納頭其旨ヲ期日前ニ申報スベシ

第二十三款 出納頭ハ殊ニ年計簿ノ算入先ク明細簿各月出納  
簿及其附録計簿ノ算并連月検査ノ成績ノ相符合スルマ否詳  
ニ之ヲ比較シ以テ監督スルノ義務ヲ負フ

第二十四款 出納頭ハ年計簿完結ノ時預ケ金返濟證書并其他

金四返却證書出納局長ノ手ヲ經タル片ハ注意スベシ但シ局  
長ハ右證書ヲ換切り且ツ消印シ以テ年計簿ノ證書ト為ス成規  
ナリ

第二十五款 各季經過ノ後毎月工レシムル収税總監劬ヨリ出

納本局ニ到達シタル間税上納期限表ヲ取纏メ太政官ニ送達ス

ベシ出納局長其表中ノ延納金額ヲ右主管ノ収税所ヨリ送達シ  
タル日表并太政官ヨリ到達ノ各工人貸付金貸表ト比較シ若  
シ其事理不明ナル片ハ其事實ヲ精覈スベシ

右間税事務ニ付連月各期及毎年伯林府獨シ帝國出納本局ト照  
會結算シ又ハ第十一大隊出納局ト照會結算スルニ必ス其條例  
ニ遵據シ且ツ期限ヲ嚴守スベシ但シ伯林出納局ト結算スルニ  
常ニ間税収入表并各季収入確定表ニ由ルベシ

第二十六款 國財本局カレアレキサンテル社按社名ニシテ同  
氏ノ創立スル者

敬及地方消防請合局ノ官金利子并利益遅クモ其期日迄完約セ  
レメン為メ出納頭ハ必ス其期日前成規ノ日マテ右ニ関スル書  
類ヲ倉庫局ヨリ取寄スヘシ

第二十七款 出納頭ハ金銀出納ヲ結算スル毎ニ其以前至当ノ  
日ヲ以テ期トシ結算條例千八百五十五年二月二十六日ノ布達  
第二百六十七号千八百六十八年十一月十六日ノ布達第千九百  
八十二号及千八百七十年六月二十日布達第千九百九十九号ニ従  
ヒ各セヨ 収入所ヨリ其収入事務費一覽表ヲ差出サレハベシ  
蓋シ出納本局結算ノ節之ヲ其附係ノ條款ニ合計セシメカ為  
メナリ而シテ此大藏寮ノ特准ヲ要セヨ 直ニ証書トナルベ  
キ収入費一覽表并ニ附屬証書及収税總監局收入一覽表(但シ此  
表中収入費額ハ各地収税所収入費額ト符合スルヲ以テ至当ト  
ス)并ラストハイム麥芽収税局収入一覽表ヲ正否調査ノ為メ直

ニ検査局ニ差出スベシ

第二十八款 出納頭ハ本局計簿ニ關スル計牒悉ク到達スル  
ハ其諸計牒ノ申上公文ノ准許ヲ經カシテ歳出豫算表ノ定額ヲ  
越ス者アルハ其旨ヲ該局計簿送達前或ハ遅クモ其送達ノ後  
大藏官ニ申報スベシ

第二十九款 本局豫算決定ノ歳出費項即チ

イ 一般ノ準備金

ロ 大藏寮ノ準備金

ハ 他寮ノ準備金(本寮直轄ノ計牒之ニ屬ス)

ハ大藏官ノ公然タル准許ト大藏寮ノ保証ナケレハ決シテ豫算  
ノ費額ヲ越ス能ハズ

出納頭ハ簿記官ノ擔任保証スベキ準備明細帳(此中ニ準備金豫  
算ノ金額記載アリ)ニ由リ各準備金ノ一項既ニ竭尽スルヲ見

ル片ハ其額外金ヲ支給スル前ニ其旨ヲ太政官ニ詳報スベシ  
口及ハノ部ニ表示スル準備金前會計年度ニ次ク歳ノ第六月ノ  
初旬ニ至リ尙未タ竭尽セザルハ出納頭其主管ノ各廳ニ尙此  
上仕拂スベキ費用アルヤ又何タル費途ナルヤヲ諮問シ且ツ結  
算ノ日迄キニアル故ニ至急其回答アリタキ旨ヲ促スノ權ヲ有  
ス  
第三十款 千八百三十九年ノ三朱利子付記台諸書引換及發行  
ノ權ヲ委任セラレタル會計諸局即チワイマル府俸給及扶助金  
尤給局アイゼナツハ府収稅局ノユスタツト収稅局ハ各年ノ  
末ニ合帳又ハ日計帳時宜ニヨリ希望通利子ノ得タ一ヲモ  
添書シ以テ出納局ニ差出スベシ  
出納頭ハ右帳簿ヲ領収ノ上之ニ付報告書ヲ太政官ニ出スベシ  
第三十一款 出納頭ハ其管轄出納局共收入所ヨリ連月又ハ各

季毎ニ送達スル報告書或ハ一覽表ニ付其期限并其記録法ヲ監  
督シ且ツ時宜ニヨリ其批考ヲ添書シ以テ日迄太政官ニ送付  
スベシ  
第三十二款 出納頭ハ第十三、十九、二十二、二十五、二十七、二  
十八、二十九、三十、三十一、款ニ記載スル期限成クハ外尙次ニ示ス  
帳簿送達期限ヲ嚴守セシメ其成規ノ日限迄太政官ニ送達スベ  
シ  
連月  
一ヶ月ヲ經過シタル后五日間ニ  
イ 出納局入金一覽表但シ是ハ収稅局監事砂糖輸出免許ノ  
鑑札ヲ下渡シ以テ得タル金額ヲ本局ニ納メタル者ナリ  
尤右ノ如キ收入アル月ニノミ限ルベシ  
備考

入金一覽表ノ中一部ハチユリゲン運上及高業會社ノ  
總監事ニ輸送スベシ其外國收稅局餉耐輸出免許ノ鑑  
札ヲ下渡スルハ其約金一覽表ヲ四季毎ニ該社ニ送付ス  
ベシ

各年ノ一月迄

〔ロ〕出納局ノ前年施行シタル事務一覽表

但シ其雛形アリ之ニ準據スベシ

各年五月一日迄

〔ハ〕前年ノ鑛山稅收入表

出納局ノ年計簿上同時ニ

〔ニ〕一般準備金ノ費項一覽表

但シ其條例ニ倣ヒ製スベシ

各年三月一日迄但シ出納頭自ラ製スベシ

〔ホ〕前年ノ收入ニシテ融通スベキ過金表

右過金中ヨリ仕拂シタル金額表

收入過金ト其中ヨリ仕拂シタル又ハ仕拂スベキ金額トノ

比較表

出納本局正金殊ニ該局會計元金ノ増減表

結算ノ片現存スル出納局預算收入ノ現金一覽表

第三十三款 出納局ノ記録法ハ常ニ簡便ニ從フベシ然レモ又

漫リニ簡略ニセズ必事務上必需ノ製度ヲ省略スベカラズ

出納頭ニ向ケ或ハ出納局ニ到達シタル指令及決議ハ成規ノ計

算式或ハ各殊雛形ノ特例ナルヲ以テ之ヲ計簿ノ証書トスル

緊要ナル片ハ之ヲ簿中ニ記入シ又其指令及決議後來ノ規則ト

スベキ旨布達アル片ハ之ヲ寫取リ或ハ其要領ヲ抜書シ以テ本

局ノ記録簿ニ記載スベシ

但レ其計帳即チ明細帳仕拂表又ハ資本帳中ニ不残之ヲ記録スルニ及バズ

出納局ノ書事(寫本并淨書)若シ該局属官ヲシテ擔任セシメ能サルハ太政官使人長ニ由リ該官ニ送達シ其上局ニ於テ整頓スルヲ以テ通常トス

第三十四款 出納頭其他ノ職務ハ第二号第三号貯金ノ管理ナリ其表ノ記録及其事務ノ決議ニ付何等ノ事故生スルモ此事務章程第七款及第八款ノ條規ニ準據シ以テ裁決スベシ

野金事務ノ記録ハ其事務ヲ他人ニ委任スル可ノミニ限ルベシ紙幣等ヲ交付シ其程度請取ヲ出サシムルヲ却テ當ヲ行ザルハ其領収者ヲシテ速ニ其請取ヲ表中ニ記セシムベシ

右表ハ出納頭夜間常ニ局外火難ノ憂ナキ場所ニ置クベシ蓋シ交付シタル紙幣ノ中未タ第一簿記官ヨリ本地收稅局ニ存在ス

ル表中ニ記入セラレザルヲアリ若シ其表一箇鳥有ニ屬スルハ他ニ証拠トスル者ナキガ為ナリ

第三十五款 本局職負不得止事故アリ退散ヲ要スルハ職務時限ヲ第五款ノ條規ニシ且ツ三日内ノ休暇ヲ附与スルノ權ハ出納頭ニ在リ然レハ三日以テ一ノ賜暇ハ必ズ出納頭ノ手ヲ經

以テ太政官ノ准許ヲ得サレハカラス  
出納頭ノ休暇ハ直ニ太政官ノ准許ヲ受クベシ

第三十六款 本局出納頭及出納官ノ封印アル倉庫并第二号第三号貯金室物品ニ屬スル鍵ハ丁寧ニ取扱決シテ他人ノ手ニ渡スベカラズ休憩或ハ退散ノ節局内各室戸障子ノ閉鎖并夜分窓戸ノ閉鎖等ニ至ルマテ克注意ヘベシ

第三十七款 夜間公事アリ蠟燭ランプ等ヲ用エルハ退散ノ節火災等興ラザル様克注意シ其外總テ火ノ元ヲ要慎スベシ

第三十八款 本府ニ出火アルハ出納頭諸鍵及繪圖ヲ携帶シ  
速ニ出納局ニ出頭シ此時ノ章程ニ由リ專要ノ事務ヲ取扱フベ  
シ

第三十九款 出納頭ハ此事務章程ノ遵守ヲ保任シ且ツ其各殊  
條款其他ノ遵奉スヘキ條例及太政官普通及特別ノ布達(但シ太  
政官普通及特別ノ布達ハ別ニ新規則創立アラザレハ向後又遵  
奉スベシ)ヲ遵奉スベキハ勿論總テ本局事務ヲ完全整頓シ其時  
限ヲ嚴守シ又公務ヲ管理シルニ平生本國政府ノ利害得失ヲ觀  
察シ其利トナル者ヲ採リ又苟一國家ノ害トシラン者ハ嚴ニ避  
クベシ

太政官ノ准許ヲ經ス獨斷ヲ以テ裁令シタラバ其権限ヲ踰ユル  
ノ疑アリ或ハ太政官ニ申報スルヲ以テ至當トスル事件生スル  
ハ其旨ヲ官ニ報告シ以テ其決議ヲ取ルベシ但シ出納局長又

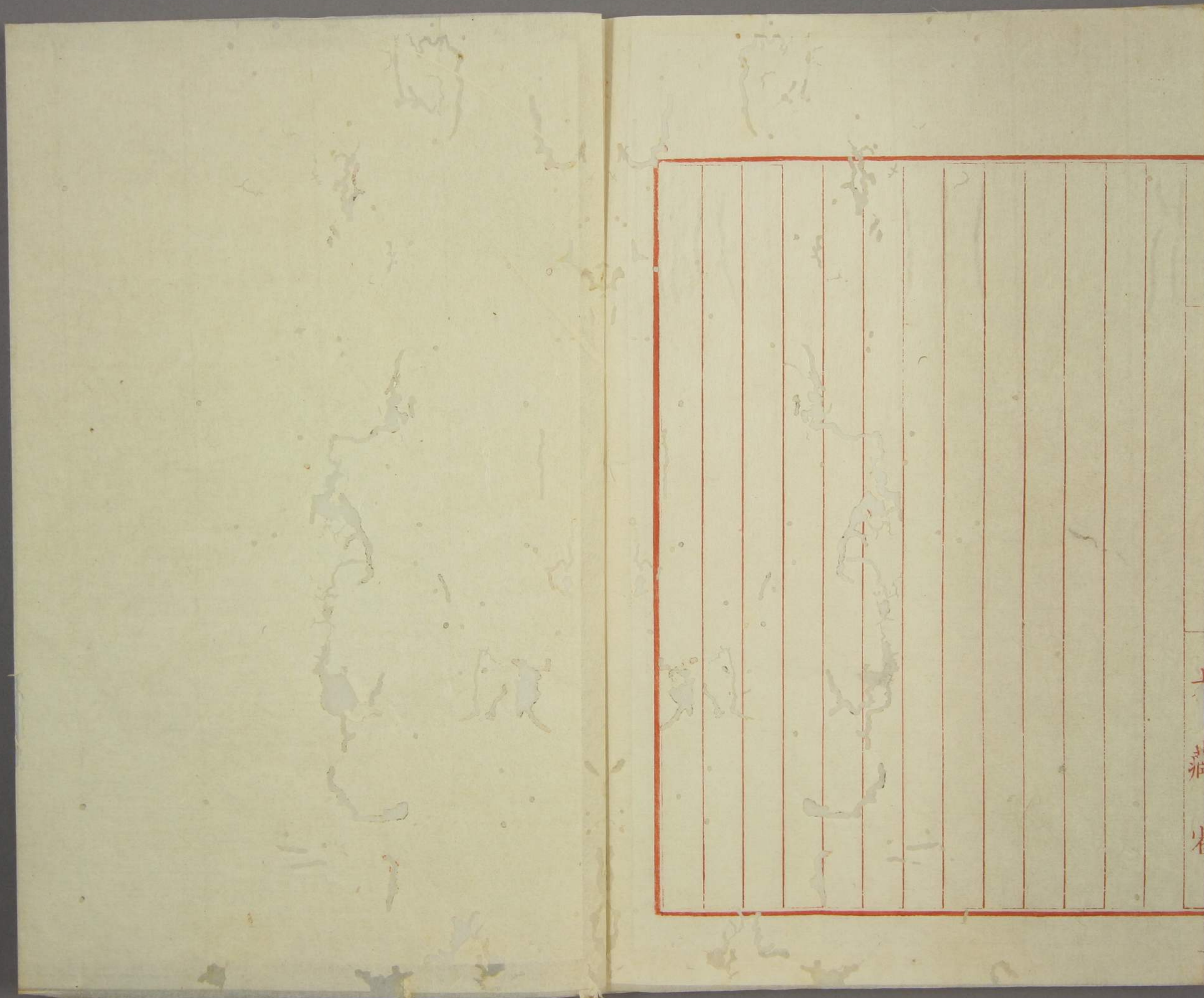
ハ其他至當ノ管廳ニ其事由ヲ諮問シ以テ其疑惑ヲ解スルハ  
此限ニ非ス

ワイマル府

千八百七十四年

八月十日

大藏省太政官大藏寮



一  
第  
卷

